



天使の悩み

～不幸せになりたい～

ver 1.2

じーこ澤田



… *天使は悩んでいました。*

「毎日、毎日、幸せだらけて退屈だな。」

どうやったら苦勞とか、辛いことって、体験できるんだろう。」

「何だ、なんだ。弟よ。
何を悩んでいるんだ。」

「あっ、兄ちゃん。
本で読んだんだけど、苦しいとか、悲しい、寂しい、辛いなんて感情があるそうじゃない。それってどんな感情なのか、知りたいなあーと思って、悩んでみていたんだ。
悩むというの、この間本で読んだばかりだからね。
早速ちょっと体験してみていたんだよ。
こんな感じを悩む・・・っていうのかあ。
兄ちゃんあってる？」

「いいんじゃないか。
俺もあんまりやったことないからよく分からないけど、もっと眉間にシワをよせるといって、書いてあったな。」

「こんな感じかな。」

「なんかおもしろい顔だな。
お前のその顔を見ていると、俺の心もなごんてくるよ。
あれっ、これは悩んでいる感じと、ちょっと違うかな。
おかしいな。なごやかな雰囲気になっちゃうな。」

「まあ、いいよ。兄ちゃん。
このタイミングで、兄ちゃんが現れたってことは、兄ちゃん、苦しいとか、悲しい・・・って言う感情のことを何か知っているんだね。
僕に教えてくれない。」

「あ～、あんまり詳しいわけじゃないけどな。」

「いいよ、俺が知っている事を話してやるよ。」

「やっぱり、
せっかく、悩むという体験もできると思ったけど、
すぐに解決できちゃって、幸せな気持ちになっちゃうんだよ
ね。」

「そりゃ、そうさ。
解決したいと思ったら、必要な人が現れるのが、この世の法則
じゃないか。」

「そうなんだよね。
僕たち天使は幸せに囲まれているんだもんね。
幸せも、もう少し少なくてもいいのにね。
その方がありがたみがあるよね。」

「我々の周りには見渡す限り、幸せだらけだからなあ。」

「ホント、ホント。」

「ハッハッハ。こんな話、人間が聞いたら羨ましがらるだろうな。」

「えっ、なんて。」

「人間はな、我々天使と違って、不幸せを見つける天才なん
だ。自分の心の中にも、周りにも、不幸せしかないと思っている
らしいんだ。
見るものすべて不幸せばかり。幸せには、ぜんぜん気がつか
ないらしいんだよ。」

「へ～、人間の住む世界には、幸せがないんだ。」

「いやいや、そうじゃないよ。基本的に世界の構造は、この天使の世界と同じだよ。」

「じゃ、何で幸せに気づかないでいられるの？」

「だから、人間は不幸せを見つける天才なんだ!って言ってるだろ。」

それはすごいんだ。話を聞いたらお前も、『不幸せって、そうやって創るんだ』って、感心しちゃうよ。俺も父さんにこの話を聞いた時は、ホント衝撃だったさ。

そんな考え方があるなんて、思いもつかなかったからね。未だにその考え方はやろうと思ってもなかなかできないけどね。」

「へ～、どんな考え方なの？僕にも分かるかな。」

「そうだな。お前もそろそろ理解できると思うよ。聞かせてやるよ。」

「うん、お願い。今日もツイてるな。おもしろそうな話が聞けそうだ。」

「まず、人間は未来を考えるのが大好きなんだ。」

「未来？何で、未来を考えるの？」

「人間は夢見る動物なんだよ。」

「夢なら僕にだってあるよ。」

「それはそうなんだけど。
人間は夢を未来に叶えるものと考えているらしいだよ。」

「・・・ えっ、どういうこと？
夢を未来に叶える・・・、意味が分からないよ。
夢はいま叶えるものでしょ。
夢を今やらずに、未来にやるの？
変なの？」

「そうなんだ。
俺も最初聞いた時、よく意味が分からなかったんだけど、
どうも人間は夢というのを、完成した形としてしか捉えていな
いみたいなんだ。」

「夢の完成した形？」

「そう、夢っていうのは、もちろんいつか完成するわけだけど、
叶えていくまでのプロセスを、夢っていうわけじゃないか。」

「そりゃ、そうだよね。
そんなの幼稚園児でも知ってるよ。」

「夢が完成する最後の瞬間なんて、ほんの一瞬で
夢を叶えているプロセスにこそ、おもしろみが一杯あることは、
幼稚園の時に繰り返しおもしろみを見いだす遊びをしただ
ろ。」

「うん、あの遊びはいつも面白かったよね。みんな大好きだったよね。」

「人間はね、夢の本体であるプロセスをほとんど意識していないみたいなんだ。夢の完成形を削り上げられるかどうかだけが、重要なんだそうだ。」

「え~~~~~っ!!!!

何それ?!

そんな考え方、聞いたことないよ。

どうやったら、そんな風に考えられるの?」

「なっ、スゴイだろ、人間って。」

「スゴイ、スゴイ!!

プロセスが夢じゃないなら、なんため夢に取り組むの?」

「だから、夢の完成形を削り出すためさ。」

「う~ん、よく分からないな。

じゃ、今取り組むプロセスには意識を向けてないの?」

「意識を向けてないわけじゃないんだと思うよ。

どうも、人間はプロセスを夢実現のための『苦勞』って、呼んでいるらしいんだ。

苦勞をしているときは、楽しくもなく、おもしろみもないから、つまらないらしい。この瞬間が、とっても不幸せなんだそうだよ。」

「え~~~~~っ!!!!

そんなのズルいよ。

不幸せでもなんでもないじゃん。

自分のやりたい夢に取り組んでいる、
むちゃくちゃ幸せ一杯な瞬間じゃん。」

「ズルいって、言われても、
人間はそれを不幸せって感じているんだから、どうしようもない
よ。
だから、人間は不幸せを見つけるのは天才なんだ。
見つけると言うより、創り出す名人ってかんじかな。」

「そんなの僕できないよ。
だってどうやったって、幸せな時としか思えないじゃん。」

「そうだろ、やっぱり人間は不幸せを見つける天才なんだ。」

「そうか。ホント人間って、スゴイんだね。
そんな風な考え方ができない自分が幸せ者に思えるばかり
だ。
あ～、なんて自分は幸せなんだろう。
やっぱり、自分の周りに不幸せなんて見つけれないよ。」

「なっ、やっぱりビックリしただろ。
よし、よし。もっと驚かせてやろうか。」

「えっ、まだあるの？」

「まだまだ。
こんなの序の口さ。」

「え～、ドキドキするな。
よし、いいよ。」

「人間はな、未来を心配するんだよ。」

「未来を心配するの？
どうやって？」

「例えばさあ、このまま道を歩いていたら、落とし穴に落ちるかもしれない……って、心配をするんだよ。」

「えっ、そんなの心配するから、落とし穴に向かって行っちゃうんじゃない。」

「いや～、その通りなんだけど。人間は上手に心配するんだよ。」

「『原因と結果の法則』を知らないの？これも幼稚園の時に習うよね。」

「そうそう、人間は『原因と結果の法則』を知らない人が多いみたいだよ。聞いた事がある人でも、見えないものの法則だから、信じられないみたいだよ。」

「え～～～～～っ!!!!
そんなのズルいよ。」

『原因と結果の法則』を知っている僕らには、心配なんてできないじゃん。原因を自分で作っていることがわかっている以上、どんな結果が起こるかは法則どおりなんだから、心配しようがないことじゃん。

何で僕たち天使は幼稚園で大切なことを、ほとんど教わっちゃうんだろうね。恵まれたこの世の中で生きられて、幸せばっかりじゃないか。不幸せは一体、どこにあるんだ～！ ぜんぜん人間は参考にならないよ。」

「そうだな。」

「なんか僕でも真似できる、人間の不幸せづくりの方法ってないの。」

「じゃ、これはどうだ。
人間はな、考え方が違う人が周りに来たら、不幸せを感じるらしいんだ。」

「どうやって？」

「こんな風に考えるといらしい。
自分と意見の違う仲間がやって来たので、自分の思い通りに事が運ばないだろうって、考えるんだ。」

「また、心配して、思った通りの心配事を現実に創り出すんだね。でも、『原因と結果の法則』に則って、心配したこと自体が原因になり、その心配事が結果として現実化しただけでしょ。思い通りになってるんだから、むちゃくちゃ幸せじゃん。」

「う～ん、そうだよな。俺もそう思うよ。何でこれが不幸せなんだ？」

「そもそも、自分と意見の違う仲間がいるからこそ、自分が知らない事なんかを教えてもらえて、みんなと協力してうまくやっていけるんじゃない。」

「いや～、その通りなんだよね。

人間はいろんな事ができることより、自分が知っている限られたことで、少しのことを下手くそにやって、怒られたりすることが大事みたいなんだよ。人間は常に心配をするようにしているみたいだしね。きっと、それが、不幸せをつくる秘訣なんだろうね。」

「やっぱり、僕には心配したり、不幸せを見つけたりする才能はないみたいだ。」

「天使の大学では、人間界に魂レベルで留学する方法があるらしいよ。そうしたら、人間の世界に赤ちゃんとして産まれて、ちゃんと心配できる方法を学んで、不幸せを見つけられるようになるみたいだよ。」

「えっ、それいいな。ぼく絶対その天使大学に行ってみたい。人間の不幸せを見つける才能を教わるんだ。」

「いいね。スゴイおもしろそうだ。俺も目指してみようかな。」

「よし、決まりだ。兄ちゃん、人間に生まれても兄弟でいようね。今日はありがとう。とっても楽しかったよ。」

「よかった、よかった。今日も幸せ一杯の一日だったな。」



☆人生ドクター☆じーこ 澤田 Koji Sawada

心のケアのできる総入れ歯専門医
心育てのリアルアイセミナー

<http://souireba.com/>
<http://jikolize.com/>

2011年7月13日